

## 浄土真宗のみ教え

浄土真宗のみ教えの基本を「浄土真宗の教章（私の歩む道）」をもとに学んで  
いきましょう。

教章の制定は、宗祖親鸞聖人の御誕生八百年・立教開宗七百五十年を控えた1967年（昭和42年）4月、当時の宗門を憂えられた大谷光照門主が定められ、親鸞聖人の流れをくむものとして、心に銘ずべき肝要を示されました。以来四十年余り、そのご教示は、浄土真宗門徒の信仰生活の規範となってきました。

この度、宗祖親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるに当たって、宗制（宗派の憲法・法律）が改正され、それに伴って新しい教章が制定されました。宗門の改革の一環として改訂されたものです。

現大谷光真御門主は、この新教章制定に当たり、『・・・この「教章」を身近に備え、折にふれて参照し、浄土真宗に親しんでくださるよう期待いたします。』と述べられています。

## 浄土真宗の教章（私の歩む道）

宗派 浄土真宗本願寺派

本山 龍谷山本願寺（通称 西本願寺）

本尊 阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

聖典・釈迦如来が説かれた「浄土三部経」

『仏説無量寿経』『仏説観無量寿経』

『仏説阿弥陀経』

しゅう そ しんらんしようにん ちよじゆつ おも しやうぎやう  
・ 宗祖 親鸞聖人が著述された主な聖教

しやうしんねんぶつ げ きやうぎやうしんしやう きやうかんまつ げ もん  
『正信念仏偈』(『教行信証』行巻末の偈文)

じやう ど わ さん こうそう わ さん しやうぞうまつ わ さん  
『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』

ちゆうこう そ れんによしやうにん て がみ  
・ 中興の祖 蓮如上人のお手紙

ご ぶんしやう  
『御文章』

きやう ぎ あ み だ によらい ほんがんにりき しんじん ねんぶつ もう じんせい  
教 義 阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生

あゆ よ えん つ じやう ど う ぶつ まよ  
を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり、迷

よ かえ ひとびと きやう け  
いの世に還って人々を教化する。

せい かつ しんらんしやうにん おし あ み だ によらい こころ き ねんぶつ  
生 活 親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如来のみ心を聞き、念仏

とな み ざん ぎ かん ぎ  
を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と歡喜のうちに、

げん せ きとう ご おんほうしや せいかつ おく  
現世祈禱などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。

しゅう もん しゅうもん しんらんしやうにん おし あお ねんぶつ もう ひとびと つど  
宗 門 この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う

どうぼうきやうだん ひとびと あ み だ によらい ち え じ ひ つた きやうだん  
同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団

である。

それによって、じ た こころゆた い しやかい  
自他ともに心豊かに生きることのできる社会の

じつげん こうけん  
実現に貢献する。

2008 (平成20) 年4月15日制定

じやうどしんしゅう きやうしやう わたし あゆ みち  
**浄土真宗の教章 (私の歩む道)**

しゅう は じやうどしんしゅうほんがんに  
宗 派 浄土真宗本願寺派

ほん ざん りゆうこくさん ほんがんに つうしょう にしほんがんに  
本 山 龍 谷 山 本 願 寺 ( 通 称 西 本 願 寺 )

ほん ぞん あみだによらい なもあみだぶつ  
本 尊 阿 弥 陀 如 来 ( 南 無 阿 弥 陀 仏 )

せい てん しやかによらい と じょうどさんぶきょう  
聖 典 ・ 釈 迦 如 来 が 説 け れ た 「 浄 土 三 部 経 」

ぶつせつむりようじゆきょう ぶつせつかんむりようじゆきょう  
『 仏 説 無 量 寿 経 』 『 仏 説 観 無 量 寿 経 』

ぶつせつあみだきょう  
『 仏 説 阿 弥 陀 経 』

しゅうそ しんらんしょうにん ちよじゆつ おも しょうぎょう  
・ 宗 祖 親 鸞 聖 人 が 著 述 さ れ た 主 な 聖 教

しょうしんねんぶつげ きょうぎょうしんしょう ぎょうかんまつ げ  
『 正 信 念 仏 偈 』 『 教 行 信 証 』 行 卷 末 の 偈

もん じょうどわさん こうそうわさん しょうぞうまつわさん  
文 ) 『 浄 土 和 讃 』 『 高 僧 和 讃 』 『 正 像 末 和 讃 』

ちゅうこう そ れんによしょうにん てがみ  
・ 中 興 の 祖 蓮 如 上 人 の お 手 紙

ごぶんしょう  
『 御 文 章 』

きょう ぎ あみだによらい ほんがんにりき しんじん ねんぶつ もう  
教 義 阿 弥 陀 如 来 の 本 願 力 に よ っ て 信 心 を め ぐ ま れ 、 念 仏 を 申

じんせい あゆ よ えん つ じょうど う ぶつ  
す 人 生 を 歩 み 、 こ の 世 の 縁 が 尽 き る と き 浄 土 に 生 ま れ て 仏 と

まよ よ かえ ひとびと きょうけ  
なり 、 迷 い の 世 に 還 っ て 人 々 を 教 化 す る 。

せい かつ しんらんしょうにん おし あみだによらい こころ き  
生 活 親 鸞 聖 人 の 教 え に み ち び か れ て 、 阿 弥 陀 如 来 の み 心 を 聞

ねんぶつ と な み ざんぎ かんぎ  
き 、 念 仏 を 称 え つ つ 、 つ ね に わ が 身 を ふ り か え り 、 慚 愧 と 歡 喜 の う

げんせきとう ごおんほうしや せいかつ おく  
ち に 、 現 世 祈 禱 な ど に た よ る こ と な く 、 御 恩 報 謝 の 生 活 を 送

る 。

しゅうもん  
宗門

しゅうもん しんらんしようにん おし あお ねんぶつ もう  
この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申

ひとびと つど どうぼうきょうだん ひとびと あみだによらい  
す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来

ちえ じひ つた きょうだん  
の智慧と慈悲を伝える教団である。

じた こころゆた い しゃかい  
それによって、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の

じつげん こうけん  
実現に貢献する。

へいせい ねん がつ にちせいてい  
2008（平成20）年4月15日制定